

平成25年度

京都府立大学全学 FD 報告書
(概要版)

教務部委員会 FD 部会

【教務部委員会 FD 部会】

全学 FD 活動報告

各学科、教養教育センター、キャリアサポートセンターでおこなわれた FD 活動の報告書をもとに、それぞれの学科・専攻での取り組みをまとめることにしたい。

学部における FD 活動

各学科からの報告では、「学生による授業評価」の結果をもとにした、傾向分析や授業改善への検討が実施された例が多い。さらに、その内容もふまえながら、カリキュラムの改善に取り組む例も昨年度よりも増えている。これは、学部学科の再編成がおこなわれてから一定の時期がたち、ある程度の見直しが必要になっていることにもよるが、FD 活動の一環としてもカリキュラムの改善が進んでいると言える。「学生による授業評価」とカリキュラム改善が直接リンクするわけではないが、よりよいカリキュラムを考えていくために何をすればよいのかという課題は、FD 活動の根幹とも言えるであろう。

学科あるいは学部独自の FD 集会 を実施した例として、公共政策学部の「ギャップイヤーを考える」（2月27日開催）が特筆される。特定の問題について教員どうしの意見交換を積極的におこなっており、有意義である。同時に、同学部では グローバル人材育成のための FD 検討委員会 も組織されており、FD を積極的に活用して教養教育全体を見渡す検討を進めている。

学科それぞれの目下の課題についても FD 活動として取り組まれており、環境・情報科学科では 教員養成についての検討 が実施され、森林科学科では 学部大学院連携科目 についての検討がおこなわれている。

学生との面談は、1 回生を対象として実施している例があるが、人数が多いこともあり、全学的に普及するまでには至っていない。

大学院における FD 活動

大学院については、ほとんどの専攻において FD 活動としての教員の会議 を実施しており、さまざまな問題点が話し合われている。史学専攻のように TA を院生の教育とどのように関連づけるかといった明確な課題を提示しているところもある。このような会議の場を通して、それぞれの専攻においてもカリキュラムの改善に向けた建設的な討議がおこなわれている。

大学院では院生との面談が複数の専攻で取り組まれている。授業改善などに直接かかわる結果にはつながらないが、大学で学ぶ姿勢 など、大学の意義を考えるよい機会になっていることがわかる。